

イエスはほかの教会を攻撃をしなかったのに、 どうして、モルモン教会を攻撃するのか？

モルモン教会主張への応答

Copyright©2010, 2003 Mormon Outreach Ministries, Sydney

末日聖徒イエス・キリスト教会（通称：モルモン教会）の多くの会員にこういわれます。「イエス様はほかの教会を攻撃することはなかったのに、どうしてモルモン教会を攻撃するのですか。キリストらしくありません！」クリスチャンは、モルモン教会の教えを聖書、歴史に照らして比較する時、いくら愛を持って真理を語っても、しばしば「反モルモン」のラベルを貼られます。私たちは、モルモン教会員個人に対してではなく、天の御父と永遠に暮らすことを阻んでいるモルモン教の教理に反対しているのです。なぜこのようになのでしょう。3つ理由が挙げられます。

1. **イエスの異父兄弟のユダは、私たちに「聖徒たちによって、ひとたび伝えられた信仰のために戦う」ことを勧めました（ユダ 3 - 口語訳¹）。**モルモン教には、異なった起源、異なった神・神々、異なった救いの方法、異なった正典があります²。玄関先を訪れたモルモン教宣教師に、「クリスチャンです」と言っても、彼らの確信を私たちに分かち合うことを控くことにはなりません。宣教師は、私たちに『モルモン書』やジョセフ・スミスのことを伝えます。正統派キリスト教信仰が攻撃されたとき、私たちはイエスへの畏敬から、敵意のある質問に弁明できる用意をしておくべきです（ペテロの第一の手紙 3:15）。私たちは、「やさしく、慎み深く、明らかな良心を持って、弁明」すべきで、私たちが「キリストにあって営んでいる良い生活をそしめる人々も、そのようにののしったことを恥じるだろう」とペテロ第一 3:16 は述べています。モルモン教会公認の教理を聖書と比較することによって、こうするのです。私たちの目的は、ほかの宗教教義を誤って伝えることではありません。モルモン教会員と会話をしている時、神が聴衆の一人としておられます。事実が歪められるとき、神に栄光を帰すことはできません。何事をするにも、すべて神の栄光のためにするのです（コリント人への第一の手紙 10: 31）。

2. **イエスは同世代の宗教指導者と真に対決しました（ルカの福音書 14:1-6）、またにせ教師とその教えを警戒するように弟子に教えています（マタイの福音書 7:15-23、16:5-6）。**イエスは律法学者やパリサイ人に、天国を閉ざして人々を入らせないと批判しています（マタイ 23: 13）。こういった宗教指導者は、イエスの生涯と働きによって神の啓示された道と預言が成就されたことを認識すべきでしたが、自分たちの目を閉じ天国へ入ることを拒否したのです³。さらに悪いことには、他の人が天国に入ることを許しませんでした。イエスはこういった人を、「白く塗った墓」（マタイ 23:27）、「へびよ、まむしの子らよ」（23:33）と呼んでいます。その上、イエスは弟子に無害に見えるにせ預言者（マタイ 7:15）と、多くの人を邪道に導いているパリサイ人とサドカイ人の教えを警告しています（マタイ 16:5-6,12）。したがって、偽教師やその教えについて警告を与えることは、キリストのようだと言えます⁴。

3. **ローマ人への手紙 10:1-4 の使徒パウロの祈りは、私たちのモルモン教徒の友人への祈りです。**パウロは以前にユダヤ教の兄弟・姉妹であったユダヤ人の救い（永遠のいのちを持つこと）を深く切望する祈りを再び明らかにしています（ローマ 10:1）。私は、モルモン教会員であったことはありませんが、モルモン教徒の教義への真面目さや、信仰を他の人に分かち合う熱意を良く知っています。ローマ 9:30-10:4 を読んでみましょう。

9:30: では、わたしたちはなんと言おうか。義を追い求めなかった異邦人は、義、すなわち、信仰による義を得た。³¹しかし、義の律法を追い求めていたイスラエルは、その律法に達しなかった。³²なぜであるか。信仰によらないで、行いによって得られるかのように、追い求めたからである。彼らは、つまずきの石につまずいたのである。³³「見よ、私はシオンに、つまずきの石、さまたげの岩を置く。それにより頼む者は、失望に終わることがない」と書いてあるとおりである。

- 10:1: 兄弟たちよ。わたしの心の願い、彼らのために神にささげる祈りは、彼らが救われることである。
- 2 わたしは、彼らが神に対して熱心であることはあかしするが、その熱心は深い知識によるものではない。
- 3 なぜなら、彼らは神の義を知らないで、自分の義を立てようと努め、神の義に従わなかったからである。
- 4 キリストは、すべて信じる者に義を得させるために、律法の終わりとなられたのである。

ユダヤ人は、義を求めるといふ立派な目標を持っていましたが、決まった行いや、モーゼの律法を堅く守るといふ誤まった方法を通して求めていました。ユダヤ人は熱心に（義を求め）競争に加わっていたのですが、決勝戦ゴールには達しませんでした。しかし、競争に加わっていなかった異邦人が（「義を追い求めなかった異邦人は」）ゴールに辿り着いたので⁵。神に認められる地位を得ることができたのです。神は、神をたずねなかったものに見出されることを喜んだのです（イザヤ書 65:1）。ローマ 3:10-11 はこう言っています。「義人はいない、一人もない。悟りのある人はいない。神を求める人はいない」「われわれの正しい行いは、ことごとく汚れた衣のようである」とイザヤ書 64:6 は述べています。

それでは、どのようにして異邦人は義を得たのでしょうか。信仰によってです（ローマ 9:30）。旧約聖書は信仰による救いを教えていましたが、パウロの時代のユダヤ人は理解できませんでした。アブラハムは「主を信じた。主はこれを彼の義と認められた」（創世記 15:6）ということを知っています。このことは、少なくともイサクを藩祭（注：犠牲の動物を祭壇で焼き、神に捧げた儀式）として捧げようとした 20 年前に起こったことです（創世記 22:1-14）⁶。アブラハムが従順さを証明する前に、彼の信仰は義とされたのです。アブラハムが神を信じた時、割礼のしるしはまだ神から与えられていませんでした（創世記 17:10,ローマ 4:11）。

聖書では、義は神の下す無罪の宣言で、個人が所有したり、達成するものではありません。（キリストの）信仰を持つ人は、神の前には義人という身分が与えられます。すべての信者は、アブラハムと同じように、義（人）と認められています。そして、義と認められたのはアブラハムの信仰なのです（ローマ 4:22-25）。（コリント第二 5:21 参照）

パウロは、「キリストは、すべて信じる者に義を得させるために、律法の終わりとなられたのである」と言っています（ローマ 10:4）。キリストは律法を完結 (*telos*) させたので、信者には義が与えられるのです。ユダヤ人はこのことを理解できませんでした。その理由は、① 神の義を知らず、② 自分の義を立てようとしていたからです（ローマ 10:3）。ユダヤ人は、信仰をもってイエスに応答しなかったので神の義を見失いました。悲劇的なことです。アブラハムのように真のクリスチャンは、死人に命を与える神—特に、われわれの主イエスを甦らせた神を信じるので、イエスの完全な義が与えられ、神の御前で受け入れられる者とされます。

4: 20 彼[アブラハム]は、神の約束を不信仰ゆえに疑うようなことはせず、かえって信仰によって強められ、栄光を神に帰し、²¹ 神はその約束されたことを、また成就することができるかと確信した。²² だから、彼は義と認められたのである。²³ しかし、「義と認められた」と書いてあるのは、²⁴ アブラハムのためだけではなく、わたしたちのためでもあって、わたしたちの主イエスを死人の中からよみがえされた方を信じるわたしたちも、義と認められるのである。²⁵ 主はわたしたちの罪過のために死に渡され、わたしたちが義とされるために、よみがえられたのである。（ローマ 4:20-25）

モルモン教会員は、「何もしないで、ただ正しい言葉をいうだけで十分で、罪のある生活をしててもかまわないということの意味するのですか」と言うかもしれません。答えは「否」です。こういう考えは、聖書とはかけ離れています。

では、私たちは、なんと言おうか、恵みが増し加わるために、罪にとどまるべきであろうか。断じてそうではない。罪に対して死んだわたしたちが、どうして、なお、その中に生きておれるだろうか。（ローマ 6:1-2）

良い行いは私たちの救いを生じませんが、良い行いは私たちの救いから生まれます。

3:4 ところが、私たちの救主なる神の慈悲と博愛が現れたとき、⁵ 私たちの行った義のわざによってではなく、ただ神のあわれみによって、再生の洗いを受け、聖霊により新たにされて、私たちは救われたのである。⁶ この聖霊は、私たちの救い主イエス・キリストを通して、私たちの上に豊かに注がれた。⁷ これは、私たちが、キリストの恵みによって義とされ、永遠のいのちを望むことによって、御国をつぐ者となるためである。⁸ この言葉は確実である。わたしは、あなたがそれらのことを主張するのを願っている。それは、神を信じている者たちが、努めてよいわざを励むことを心がけるようになるためである。これは良いことであって、人々の益となる。（テトス 3:4-8）

2:8 あなた方の救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。決して行いによるのではない。それは、誰も誇ることがないためなのである。私たちは神の作品であって、よい行いをするように、キリスト・イエスにあって造られたのである。神は、わたしたちが、良い行いをして日を過ごすようにと、あらかじめ備えてくださったのである。（エペソ 2:8-10）

私たちが天の御父と永遠にすごせることは、神からの賜物です。永遠のいのちは、あなたの近くにあり、あなたの口、あなたの心にあるのです（ローマ 10:8）。

10:9 すなわち、自分の口で、イエスは主であると告白し、自分の心で、神が死人の中からイエスをよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われる。¹⁰ なぜなら、人は心に信じて義とされ、口で告白して救われるからである。（ローマ 10:9-10）

[注：パウロは、モルモン教理の「普遍的な救い」（万人が体の復活にあずかること）を教えているのではなく、天の御父と永遠にすごせることを教えています]

よくよくあなたがたに言うておく。信じる者には永遠の命がある。（ヨハネ 6:47）

結論：私たちは聖徒たちによって、ひとたび伝えられた信仰のために戦わなくてはなりません。ローマ 10: 1-4 は、私たちのモルモン教会員の友人へのための祈りです。彼らのモルモン教義への真剣さや、信仰を他の人に分かち合う熱意を私たちは良く知っています。しかし、どのようにして私たちが神に正しい者とされるかについてモルモン教会員が教えられていることには同意できません。福音的クリスチャンは、神の義に従い、神の義を賜物として頂いています。良い行いはわれわれの救いを生じさせませんが、われわれの救いは良い行いへと導きます。パウロは、「キリストは、すべて信じる者に義を得させるために、律法の終わりとなられたのである」と述べています（ローマ 10:4）。神の義に服従するには、あなたはプライドが高すぎるのでしょうか。パウロの時代のユダヤ人と同じ誤りを犯さないでください。今日、あなたは神の御前に義とされる事ができます。

NOTES

1. 「新改訳聖書」（日本聖書刊行会）では、ユダ3は「聖徒にひとたび伝えられた信仰のために戦うよう」と訳されています。日本人のモルモン教会員は、日本聖書協会の「口語訳聖書」を使用しているので、本文では口語訳聖書を使用しています。
2. John Bracht, *"Mormonism: magnificent illusion" in "Briefing"* (Sydney, Matthias Press, Dec.17, 1997) p.14
3. Leon Morris, *The Gospel According to Matthew*, PNT (ed. D. Carson, Cambridge, Apollos, 1992) p.579
4. Mark Cares, *Speaking the Truth in Love to Mormons* (Milwaukee, Northwestern Publishing House, 1993) p.214
5. Douglas Moo, *"ROMANS" in "New Bible Commentary"* (Leicester, IVP, 1994) p.1145
6. James R.White, *"Letters to a Mormon Elder"* (Minneapolis, Bethany House Publishing House, 1993) p.279